

## 世田谷村日記

石山修武

十一月十二日

七時起床。八時過発。今日は建築学科入試特別選考。九時過研究室。十時面接開始。十五時三〇分修了。十六時三〇分判定会議。森正洋先生と亡くなるの報、佐賀新聞梅木君より入る。無念なり。大好きな方だった。又、現代日本にかけがえの無い人物が居なくなってしまうた。肩を落とす。月並みだが、古武士の風格がある人であった。早稲田ハウハウス佐賀で言葉に表せぬ程お世話になった。

十八時合否判定会議了。森正洋先生亡くなるのいささかの（予想はしていたけれど）哀しみを静めようと、クンメーでビール飲む。二〇時二〇分現在桜上水駅。実に沢山の人が森正洋先生亡くなるという事とは無関係にうごめいている。そんな当たり前の事が、でも変だよコレワ。変だと思わぬ方が自然な状態は本当は異常なのだ。こんな馬鹿な感情を抱く人間が出現したのは何時の頃の事だろうか。世界という観念と孤独という観念がいつの頃に人間の気持ちに定着したかという事だろう。それが近代のはじまりなのだろうか。二〇時四〇分頃世田谷村に戻る。佐賀新聞梅木君よりFAX入っていて、森正洋先生の通夜、葬儀の日程を知らせてきた。

十一月十三日 日曜日

昨夜は一人でワインを飲んでしまった。朝いささか体調が思わしくない。正夫おじとほんとに久し振りに話す。十時、大阪の渡

辺豊和さん来宅。色んな話しをする。渡辺さんはここ十年建築を作っていないと言う。いいじゃないのそんな事。ゴミを垂れ流すのも生き方、そうしないのも生き方である。午後よりシンポジウムがあるとの事で、十一時四〇分近くまで送り、別れる。宗柳で一人昼食。オヤジが焼き魚をごちそうしてくれた。

十一月十四日

九時半、研究室にて三沢千代治氏と打合わせ。十時四〇分了。その後雑打合わせ。十五時修論ミーティング。何も修士はないなチリのアベルにチョツと見るべきものがある。十七時過、清水建設大山氏来室。十八時前、古市氏と新宿へ。高島屋十三階小松庵で会食。二〇時半迄。新プロジェクトに関して相談する。二十一時過世田谷村に戻る。

山口勝弘さんより元気な電話あり、ホツとする。

十一月十五日

八時起床。今日は第三回<sup>1</sup>2C農村研究会の日。

十二時四十五分大学。十三時<sup>2</sup>2C農村研究会。全国から四十五名の参会を得た。まだまだ十五名位に絞ろうとの予定がここまでふくらんだ。全員の自己紹介一時間の後、結城登美雄レクチャー。食と農村。石山研スタッフ、学生のプレゼンテーション。農文協甲斐氏レクチャー。北海道十勝後藤氏レクチャーと続き、質疑応答の後十八時過修了。五時間の長丁場の会となった。十八時半新大久保駅前近江屋で懇親会。二十名程参加。二十二時修了。二十三時世田谷村に戻る。